



POINT 1

コロナ禍での
地域医療連携

POINT 2

コロナ医療×災害医療

POINT 3

診療報酬制度への
提言

13:13



特集

旭川発
地域医療連携により
クラスター封じ込めに
成功！

地域でのコロナ対策を検証する

昨年十一月、旭川市内の三か所の医療機関でクラスターが相次いで発生しました。クラスター発生施設の一部では救急患者の受け入れを停止したため、旭川赤十字病院をはじめ他の二次救急病院への負担増を危惧しましたが、現実はそのような状況はなかったといえます。「コロナ医療に関しては、災害医療に近い部分がある」と牧野先生は説明されています。同院が有する災害医療へのノウハウを活かせる場面が多く、院内体制の早急な整備につながったといえます。ただ一方で、災害医療体制の常時運用は、医療資源面、コスト面など現在、多くの課題を抱えています。中医協委員の立場から、今後の診療報酬に関する内容にも言及いただきながら、通常医療とコロナ医療の両立について伺いました。



旭川赤十字病院 院長
牧野 憲一 先生

牧野 憲一 先生のご紹介
●専門分野:脳循環代謝、脳核医学、脳卒中治療、医療マネジメント
●国際脳循環代謝学会、日本脳神経外科学会
日本脳卒中の外科学会、日本脳卒中学会
日本救急医学会、日本医療マネジメント学会(評議員)医療の質・安全学会(代議員)

特集

永寿総合病院のいまを知る -新型コロナ禍を超えて再生への道を歩む-

11:30



永寿総合病院 院長
愛甲 聡先生

1986年慶應義塾大学医学部卒。
2010年より永寿総合病院外科勤務
2020年10月院長に就任。

愛甲 聡院長によるクラスター収束後の取り組みと現況解説！

東京都台東区に位置する同院は、昨年3月に大規模な院内感染が発覚し、2カ月にわたり、外来患者の受け入れを停止するなど困難な局面に陥りました。現在も、“安心できる受診体制”のもと、地域中核病院としての責務を果たし続けています。

地域医療連携センター長池田啓浩先生による
院内感染防止対策 Point解説！

抜本的に見直した感染防止対策に関し、施設案内を通じわかりやすく解説いただきました。

院内感染防止対策 4つのPOINT

- ① 入館時の感染対策
- ② PCR検査/検査装置の導入
- ③ 入院後の感染対策 (HCU・緊急入院専用病棟)
- ④ コロナ疑い患者対応時のデモンストレーション



永寿総合病院
地域医療連携センター長
池田 啓浩先生



薬剤師向け経営サポート

好評公開中！



プラザコンサルティング株式会社
代表取締役
井関 健二 先生



13:19

～地域医療へ参画する為の～
処方元・多職種連携の現状と
その解決策

アジェンダ

- ① 処方元・多職種連携の現状
- ② 処方元・多職種連携の課題
- ③ 処方元・多職種連携の解決策



13:15

～処方元との連携強化を図る～
トレーシングレポート作成の為の
留意点

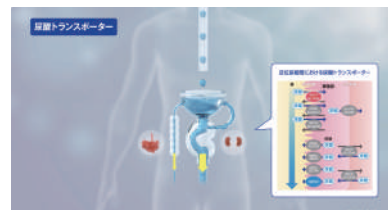
アジェンダ

- ① トレーシングレポートが求められる背景
- ② トレーシングレポートの現状
- ③ トレーシングレポートの留意点

尿酸

尿酸トランスポーターの役割とドチヌラドの特徴

7:18



- POINT 1 尿酸トランスポーター
- POINT 2 ABCG2機能低下による痛風発症のリスク
- POINT 3 ユリス錠の臨床試験



本コンテンツでは「痛風・高尿酸血症の基本と最新知見～SURIによる治療戦略を理解するために～」をテーマに、尿酸トランスポーターの役割とドチヌラドの特徴について市田先生に解説いただきました。ぜひ、ご視聴ください。

東京薬科大学薬学部病態生理学教室 教授

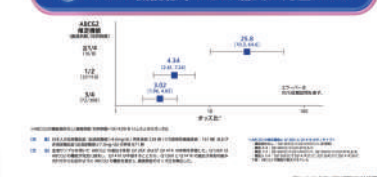
市田 公美先生

●経歴
1982年 東京慈恵会医科大学卒業
2007年 東京薬科大学薬学部病態生理学教室、教授就任
2013年 東京慈恵会医科大学附属病院
腎臓・高血圧内科 客員教授
2020年 青島大学客員教授

●専門分野
腎臓病及び痛風・高尿酸血症の臨床一般と、基礎研究ではプリン代謝と腎臓における尿酸輸送

提供：持田製薬株式会社

ABCG2機能低下による痛風の発症リスク



高尿酸血症の原因の1つとしてのインスリン抵抗性



心房細動

心房細動診断とAIの未来

6:37



- POINT 1 AIがDOAC投与が必要となるAF患者さんを見つけ、適切に治療を行うステップが今後重要になってくる
- POINT 2 DOACの薬剤選択では、大規模臨床試験だけでなく実臨床においても有効性と安全性を検証している点が重要となる
- POINT 3 AIを使うことで、非専門医の先生でも心房細動を見逃さずに早期診断できることが最初の目標



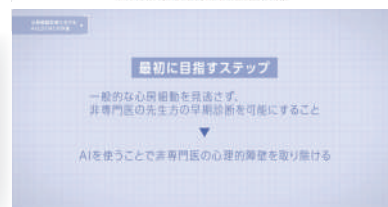
国際医療福祉大学医学部 教授

田村 雄一先生

●専門分野
循環器内科、肺高血圧症、肺塞栓症、心臓リハビリテーション

循環器専門医でありながら、人工知能(AI)の心電図解析システム開発にも携わる田村雄一先生に、心房細動診療における最先端のAI技術や今後の活用法について3回にわたりご解説いただきます。今回は心房細動診療に関連したAI技術とDOAC治療の重要性についてお話いただきました。

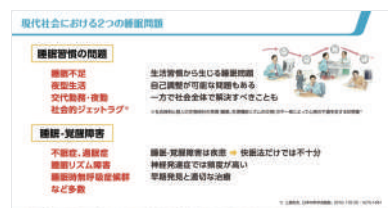
提供：バイエル薬品株式会社 PP-XAR-JP-2426-16-02



睡眠障害

知っておきたい子どもの睡眠問題② 睡眠問題が子どもに与える影響とは？

7:22



- POINT 1 現代社会における2つの睡眠問題
- POINT 2 神経発達症の子どもの睡眠問題の併発率
- POINT 3 睡眠問題は子どものメンタルヘルス問題の早期サイン



秋田大学大学院 医学系研究科
精神科学講座 教授

三島 和夫先生

●研究分野 精神科、睡眠障害
●ご紹介
秋田大学医学部医学科卒業。2003年に米国スタンフォード大学医学部睡眠研究センター 客員准教授。2006年より国立精神神経医療研究センター睡眠・覚醒障害研究部部長を経て、2018年より現職に就任。これまでに睡眠薬の臨床試験ガイドライン、同適正使用と休薬ガイドライン、厚生労働省研究班の主任研究者を歴任。

現代社会の睡眠問題を二つの観点（睡眠習慣の問題と睡眠・覚醒障害）に分け、各々の子どもへの関わりと、神経発達症の子どもへの睡眠問題の併発率とその影響を解説いただきました。

提供：ノーベルファーマ株式会社

